

税務行政は「経験則」から「データ活用」へ。

国税庁新システム「KSK2」が本格スタート

令和8年9月24日

1 KSKとKSK2とは何か

KSKとは、全国の国税局・税務署をネットワークで結び、法人税・所得税・消費税などの申告、納税、調査情報を一元管理する国税庁の基幹システムです。平成13年から全国で運用され、税務行政の効率化を支えてきました。そのKSKの後継システムとして、令和8年9月24日に導入が予定されているのがKSK2です。



2 KSK2で何が変わるのか

I 紙で提出された申告書などをAI-OCRで読み取り、データ化して処理

多くの書類で様式が変更となり、新様式では申告書等の控えが廃止され、用紙のサイズもA4版となります。



II 税目ごとに分かれていた情報を統合し、横断的なデータ管理を実現

過去の申告データや外部データ（金融機関情報など）を全国レベルで統合・分析することが可能となるため、申告漏れの可能性が高い納税者をより精度高く絞り込めるようになります。



III 税務職員が調査先から「その場でデータベースにアクセス」できるようになる

例えば遠方の取引先とのやり取りをWeb会議システムなどのオンラインツールで行えるようになるので、これまで出張に要していた時間が短縮されて、その分他の調査等に充てる時間を増やすことができます。



3 今からできる対策

I 正確な帳簿の整備

日々の経理処理における数値の変化や、帳簿・証憑・申告内容の整合性を客観的に説明できるようにしておく必要があります。



- ✓ 帳簿の記録
- ✓ 証憑の保管・整理
- ✓ 申告内容の整合性

II グループ全体の税務管理

個人と法人を分けて考えるのではなく、グループ全体の税務リスクを把握しておくことが重要です。



グループ全体での
税務リスク管理

掲載している情報は掲載時点のものです。

真面目な企業納税者が集う。だから法人会です。

 法人会